

# 小学校における授業のユニバーサルデザイン化

## ー 理科の授業をベースにして ー

学籍番号 229326

氏名 西田 晋宇

主指導教員 岡 博昭

副指導教員 石川 聡子

## 1. 背景

### 1.1 研究の背景

令和3年度文部科学白書では、特別支援学級の在籍者数は小学校と中学校を合わせて約32.6万人であり、通級による指導を受けている児童生徒数は小学校、中学校、および高等学校をあわせて約13.4万人である。現在、特別支援学級に在籍している児童・生徒や通級による指導を受けている児童・生徒数が増加している。しかし、令和の日本型学校教育では教科学習を共同で実施することが可能なものについては、計画的に実施することが必要であり、ユニバーサルデザイン(以下UD)や合理的配慮の提供を前提とする授業づくりが必要であると述べられている。国語や算数の授業は学力別に少人数授業を行っている学校が多いが理科や社会の授業は同じ教室で授業を行っている場合が多い。そのため、理科を主体として共に同じ教室で学ぶための授業を開発し、他の教科にも発展させて授業UDのデザインを考える。

## 2. 目的

### 2.1 授業のUD化

全ての児童が同じ教室で学習するためには様々な配慮や指導の工夫が必要である。このような考えのもと、学級内の全ての児童がわかりやすい授業として「授業UD」が考えられるようになった。授業UDには、「視覚的な手がかりを活用する視覚化」、「授業のねらいや活動を絞る焦点化」、「話し合い活動を組織化する共有化」の3つの視点がある。本研究では視覚化と焦点化に着目した。

授業の導入やまとめの際に必ず教科書を使用するが、教科書を読み続けていると疲れてしまう児童がいる。現行の教科書はUDフォントと呼ばれる目に対する負担が少なく、識字しやすいデザインが用いられているが教科書によって使用されているフォントが異なる。そのため、UDフォントの有用性をアンケート調査で調べる。

次に、児童は授業中に「ふりかえり」や「まとめ」、「考察」など自分の意見を書く場面が多くある。その際に、何を記述すれば良いのかわからず、書くことが出来ない児童や、楽しかったなど感想を書いている児童がいた。本研究では焦点化の工夫をして児童の記述力を向上させる。

視覚化と焦点化に着目し、それぞれの観点を取り入れた授業開発を目的とすることにした。

### 3. 方法

#### 3.1 UDフォントについてのアンケート

UDフォントの有用性を調べるために、実習校の4、5、6年生(138名)にフォントの可読性についてアンケートを行った。新旧の教科書についての読みやすさの比較、文字毎にフォント別の読みやすさについてのアンケートを取り、カイ二乗検定と残差分析を行った。以下はアンケートの一部分である。

(3) ①～④で読みやすい数字に○をつけてください

①おおさかきょういくだいがく	③おおさかきょういくだいがく
②おおさかきょういくだいがく	④おおさかきょういくだいがく

①オオサカキョウイクダイガク	③オオサカキョウイクダイガク
②オオサカキョウイクダイガク	④オオサカキョウイクダイガク

図 3.1 アンケート用紙 (内容は一部変更)

#### 3.2 授業の焦点化の工夫

児童に書くことのきっかけを与えるために、毎回の授業でふりかえりを行った。それらを1枚のプリントにまとめて単元で学んだことを確認しやすいようにした。また、単元の導入時に、単元終了時にまでに考えてほしい目標を1つ設定し、それについても考えた。このような教材を「理科のコンパス」と名付けて授業実践で使用した。

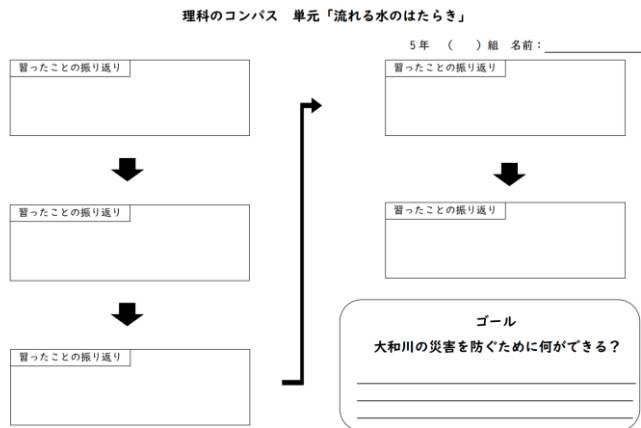


図 5.2-1 理科のコンパス

### 4. まとめ

#### 4.1 研究の成果

UDフォントについてのアンケートから児童が読みやすいと感じるフォントを知り、「理科のコンパス」をはじめとする教材開発に活かすことが出来た。「理科のコンパス」を使用することで、多くの児童が根拠を持って理由を書くことが出来るようになり、一言だけの感想のような記述が減った。今後はより長期間継続的に使用した場合の有用性を検証したい。